カリキュラム考Ⅱ：
幼稚園における英語活動を通して

上　野　め ぐ み

［**要旨**］現代を生きる子どもたちに向け幼稚園の方向性を示した、新幼稚園教育指導要領。子どもたちの「生きる力」を伸ばすべく、幼児期の育むべき力の基盤、それが保育活動のコアであろう。幼稚園における英語活動のカリキュラムは、当然　その保育活動上において実践されるべきことは言うまでも無い。英語活動をいかに保育内容と連動させ、子どもたちの「生きる力」の育成に活かせるか、生涯教育の第一のステージとしての幼児期の英語活動の試行内容、実践と課題点を考える。

文京学院大学文京幼稚園において　英語が正課として導入されるようになってから長い年月を経てきた。その間に日本における＜英語学習＞の有する意義は変化し、我々を取り巻く実際の社会状況等と言う諸要素の変化に伴い、英語に携わる人間は日々　教授法とそのテクニック、それぞれの教授法の効果と実践、教材、教具、カリキュラムなどを含め、試行錯誤を繰り返してきた。子どもの言語習得と英語教育、子どもとことば、子どもの発達段階や児童心理学に即した教育と言語教育、効果的な英語活動とは？　身体的、知的発達と英語学習の関係性など、私自身も実際の幼稚園の保育を垣間見、保育との連動を英語活動の一要素として導入し、常に、内に湧き上がる疑問と確信の狭間で、学習者や保育者と共に悩みながら進んできた。日本での小学校での英語教育の現状は私立、公立共に大きく変貌を遂げ、今更、特記するには及ばない事ではあるが、1994 年から実験的に始まった公立小学校の英語教育への取り組みは研究開発校が実験的に授業公開、研究会を経て、小中学校の連携や各々の取り組みを試行し 2002 年 4 月、公立小学校で「総合的な学習の時間」を持つなかでの英語を導入という現在の形に至っている。日本のみならず、EU 諸国、アジアを含み、世界中の国々が真剣に英語教育に向き合い、教育言語としての言語のひとつとして様々な論議と実践を重ねている。そういった状況下で幼稚園での英語活動はいかにあるべきかは、年を追う毎に、また、学習者である園児の諸要素に対応すべく　問われている。大学、短大生の英語教育から感じる日本の一貫すべき英語教育の核にも確実に繋がるもの。幼稚園児にも大学、短大生にも共通する学習者と外国語教育の本質的な意味を問いながら、年少　年中　年長の三年間に渡って英語活動の自身の経験を基に、今回はカリキュラム試行と題し論を進めていこうと思う。

1：文京幼稚園の教育課程の視点から考える英語活動

平成 19 年 3 月に作成された当園の教育課程の中での保育上の留意点の中から参考に何点かを抜粋することとする。（アンダーライン・（　）「　」は当園によって付けられたものをそのまま抜粋）

・各学年共にチーム保育を行い、様々な角度から園児の様子を見守り、適切な援助を行う。（・・・同学年 3 名の保育者が共通見解を持てるよう、日頃からよく話し合う）

・園児一人ひとりの個性をよく見て、良いところを伸ばすよう心がける。

・園児の自立心を養う。（常に「自分で考えて行動できるようになる」ことを意識する）

・園児に、人に対する思いやりの心、諦めずに頑張る心など「生きる力」を育てる。Team 保育や各個性の尊重、自立心や「生きる力」の育成など　園が全保育活動の基礎となっている。登園の教育目標は学園全体の教育信条である・誠実 Sincerity（生き生きと元気に遊ぶ子）・勤勉 Diligence（いっしょうけんめいがんばる子）仁愛 Benevolence（やさしく、助け合う子）である。

英語活動においても、当然　生き生きと活動に自主的に参加し、新しいことにも一生懸命挑戦し、クラスメイトと共に活動を楽しむことを目標にし実践を試みてきた。

活動においては、前年度紀要でも述べたが、さらに、保育者との研修ならびに意識的な時間の確保をし、活動についての話し合い、活動内容に対する考え方や方法、教材の sharing、活動前後に活用される連絡帳などで保育者と英語講師間の Team － teaching、英語活動内の group 活動と 6 色に分けられた各クラスの英字名札の活用、各学年の保育室とみくるルームでの英語活動と保育活動内に組み込まれた園外英語活動などと英語講師の園行事への参加（例・年中園外保育や年長　お泊り保育などへの参加）年少 3 クラス・年中 2 クラス・年長 2 クラスという各学年 60 名程度という比較的人数の多いクラスでの活動内容の工夫と実践、園だよりなどの配布物上の英語活動報告、年間予定されている英語参観など。保育室・仲良しコーナー、階段や廊下などの英語コーナーの設置と活動環境の整備。英語絵本図書コーナーの充実やコーナー等での降園時の保護者との communication など試行している。今回は年少・年中を中心に、次年度は年長の三年間の試行について再考・整理していきたいと思う。

2：年少児 3 歳児の英語活動

3 歳児（ことり・りす・うさぎ組）

教育目標；前述の園の教育目標：誠実　勤勉　仁愛

学年（指導の重点）：

・基本的な生活の仕方が分かり、自分のことは自分でしようとする。

・保育者に信頼感を持ち、安定した情緒を基盤に遊びを楽しみながら友達とかかわりをもつ。
一学期（Ⅰ・Ⅱ期）：大きなねらい＝育てたい方向性　園生活になじむ
二学期（Ⅲ・Ⅳ期）：友だちとかかわって活動する
三学期（Ⅴ期）：積極的に活動する

年少クラスの英語活動は、個人差は勿論あるものの、幼稚園という初めての集団活動に慣れはじめたと思われる夏休み後　園児やその他の条件に合わせ、9 月 10 月を第一回に設定している。二学期（Ⅲ・Ⅳ期）にあたるこの時期環境構成の要点には―みんなで歌ったり、踊ったり、走るなど多くの友達と一緒に活動する場をたくさん設ける。保育者も一緒に遊びながら、言葉を補ったり、気持ちを代弁したりして友達とのかかわり方を知らせる。（教育課程 3 歳児（ことり・りす・うさぎ組）より一部抜粋）年間計画表にも 4 月より人間関係の項目の中で 3 クラス合同活動や年長児とのかかわりなどを経、大きなねらいに沿って保育活動が徐々に進められている。また、言葉の欄に着目すると、1、4 月から 9 月までの園生活で、①呼ばれたら返事をする。②自分の名前を言う。③インタビュー④挨拶をする。⑤保育者の援助で自分の意思を伝えようとする。（かして・いやだ・いいよ・入れて・ありがとう・ごめんね等）の実践が継続されている。文京幼稚園では各クラスの年間計画表、1 行事　2 健康　生活習慣・あそび・体操　3 人間関係　4 環境　5 英語　6 言葉　7 表現　作品名　製作　素材　・うた・手遊びの項目に分けられた四月から三月までの大まかな指針となる表が　保育者によって毎年手がけられる。更に　月案　週案　日案と　細かな計画案によって日常保育が行われている。年間計画案のみならず、月案や週案、日案は各学年の保育者によって練り上げられ　常によりよい案を生み出し実行すべく話し合いが年間を通し続けられている。

幼稚園の英語活動に関わらせて頂くようになってから　英語活動がこのように多くの保育者の経験と園児たちとの関わり合いによって練られてきた年間計画案　週案・月案・日案を基に保育活動との連動性を第一に考えていく事こそ急務であると感じ、活動案の試行を続けている。三年間の幼稚園の保育内容にしっかり英語活動を寄り添わせるためには、当然　保育者の視点と英語講師の視点をうまくて合わせていかなければならない。活動の視点や焦点を合わせることの重要性は勿論、ここで述べるまでもないであろう。前述の大きなねらいと言葉の計画案に焦点を合わせ、まずは第一回の英語活動では、10 分の活動内で、挨拶の導入・ TOPIC として 10 月初めに開催される運動会に焦点を合わせ、18 年度はお菓子の国を theme に登場する名詞に限定し、story － telling を導入。運動会での親しみのあるお菓子の名詞や rhythm を取り入れることで初めての英語活動への心の壁に対する配慮をする。園児の Motivation をしっかりサポートできる興味ある対象物を教材として採用し、活動構成をする。既に　親しみのあるメロディーを言葉の導入に活用する。実際の行事や保育に使用された教材を借用し、物語の基礎を創作し、英語活動独自の展開を考え、興味をもって活動に参加できるようシンプルに物語を英語で進める。適宜に日本語の導入、あるいは、理解に必要と思われる言葉の投げかけなどを保育者に補ってもらいながら 3 月までの 6 ヶ月間 8 回の活動を内容に変化を持たせながら、一回毎

に完結形式―（Song や内容の復習、あるいは TOPIC ・例えば文字や色・数字・形に関して等は繰り返して）で進めていく。年少から年長なで ABC Song を共通して Warming － up として導入。年少では歌の後半を Now I know my ABC's を二回繰り返し・年中では同じ箇所に Now I know my ABC's．Tell me what you think of me．を、年長では Now I know my ABC's．Next time won't you sing with me．を採用し年間を通し歌っている。

言語指導の基本要素

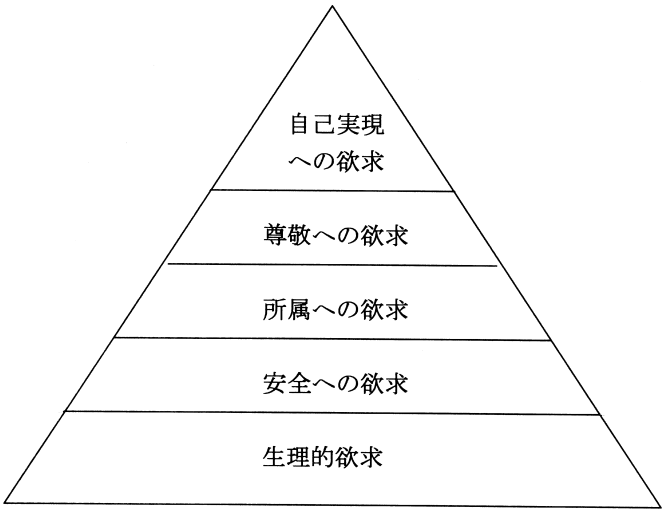
①クラスのムード作りが成功しているか？

②学習者との信頼関係ができているか？

③クラスのルールが明確で納得がいくものであるか？

④相互理解の増進を常に図れているか？

⑤マスロー（Maslow, A.H）の三角形を言語学習・言語活動に当てはめ、園児の様々な欲求を満たし、底辺の三層、特に「安全への欲求」「所属への欲求」を十分満たし、「分かる」活動を常に心がけているか？



⑥教師自らが生き生きとしているか？

を各英語活動前後に確かめながら必ず活動を進めていくことに決めている。年少クラスでの class － management はほとんど　保育者の補助なしには不可能であるが、TPR（TOTAL PHYSICAL　RESPONSE）の活動に関しては例外と言えるであろう。さらに Listen and act、あるいは Listen and say and act の形で最後の Greeting（挨拶）直前、活動の後半や何らかの要因によって集中力の欠けた場合にも適時に導入する動きを伴った活動はほとんど例外なく楽しく参加できる活動の 1 つと言えよう。また、動きを伴った活動の最後には軽い stretching を必ず入れるようにしてきた。各保育者がクラスでの英語活動の導入に期待感や一連の保育活動と自然に組み入れて流れを作る工夫をしていることは特記すべきことであろう。一斉活動としてうまく流れを作って行く為に実際使われているのは、＜年少の保育室にお友達が来る、special

guest が来る、＞などの期待感を持つような言葉かけや　導入済の英語の歌を練習して入るところに入室、等　様々である。講師は保育室の外側で stand － by し保育者と園児の言動を英語活動以前から伺い知ることが出来るわけである。園児の心の準備も含め、出来うる限り楽しい活動にすべく試行を繰り返すうちに、保育者が保育室の外が見え、あるいは英語講師の姿などによって集中できない要素を取り除く為に　カーテンを閉めて落ち着いて活動を始めるための準備を図り、環境の整備をしてから講師への入室の声かけをしてくれるようになっている。保育者の視点から、園児のどの状態から活動を始動させることがその時点でより良いかを常に考えているわけであろう。さて、19 年度 10 月は一回のみの導入予定である。運動会後であるのだが、HALLOWEEN の activity を予定している。近年、入園以前に英語を習い事の一つとして選択したり、英語との接点を TV 番組、VIDEO や DVD、英語のサークルなどに所属するなど様々な英語体験をもつこどもがふえている。入園式の時点から英語の講師として園児や保護者に紹介を受ける講師は本格的に　保育室で英語活動を始める 10 月まで　園内外で英語で声かけを試み、年少児には、保育者の声かけのサポートもあり、「Hello!」「Good　morning ！」「My name is …」「Good － bye ！」と自主的に挨拶する園児もいる。保育室や廊下、園庭においても、最近では講師の手を引き、遊びの仲間として加えてくれたりする園児もいる。今年度は年長までの三年間の HALLOWEEN － activity の第一導入として TOPIC として Trick or Treat ！の short － story を数・色などを FOCUS し導入予定である。11 月は 2 活動予定されているため、HALLOWEEN 活動の復習と一日動物村という行事に焦点を合わせ、TOPIC は動物、山の音楽家の英語編、12 月の TOPIC は森のクリスマス、一月は 2 活動 TOPIC はお誕生日、二月は園行事・子ども劇場を TOPIC に 3 月は保育活動にも積極的に導入されている Cooking を TOPIC に採用予定している。2006 年度の年少クラスの活動における大きな改善点は保育者の提案による 3 クラスの活動の時間割り振りであろう。3 クラスを連続して 10 分の英語活動を続けて三コマすると 1 番目 2 番目、3 番目各クラスの園児の待ち時間は順番を待つという集中力を必要とする要素が活動内容や実践以前の大きなマイナス要素になってしまうこともあった。その待ち時間を日案に照らし合わせ、保育活動の連続性の中にはめ込み、各クラスの一番効率の良い時間帯に英語活動を入れ込む。たとえば、朝一番に 2 クラスの活動、ランチタイム前や降園前に 1 クラスといった日案に修正したのである。本来の保育活動を分断させずに、英語活動にもプラスになる。3 活動連続して行うよりも、それぞれの活動を実践し、各クラスの園児の活動に対する反応や活動内容に対する改善さえも図れる結果となった。年少の 3 学期（Ⅴ期）にいたっては、活動にも慣れ、個人差はあるものの、園児同士が互いに真似をしたり、真似をすることを楽しみ、互いに学んでいく姿（Peer learning）が観察される。年中・年長に進級するに従い、内容を深められるような TOPIC を意図的に扱っていく、年齢や興味、知的好奇心を刺激しうる TOPIC をいかに年少の視点で選択し、出来うる限り最小限に内容を抑えて扱っていくかが、非常に難しい点であろう。こういった観点は年少クラスにかかわらず、年中・年長クラスのカリキュラム案を作成、実践する際にも重要な要素であろう。Dr. Miriam

Stoppard 氏著の「TEST YOUR CHILD or HOW TO DISCOVER AND ENHANCE YOUR CHILD'S TRUE POTENTIAL」の中の SIMPLE TEST を参考に 3 歳児 4 歳児 5 歳児に対する活動として Performance tests ・ picture completion から What's missing ？などの活動を採用、picture arrangement から story － making、coding から shapes ・ symbols の導入と連続性の発見ゲームなど object assembly から大きなピースのパズル遊び・また block design 遊びなどを導入している。年齢に合わせた活動は、あくまで十分に出来る活動を興味のある対象を採用して英語で行う。英語を無理なく使用できうる内容を保育者と共に選択していく。ともすれば、英語講師が原案で考案するものには、無理があり、保育者の提案によって案を練り直し、実践した活動のほうが園児に無理のない、つまり余裕を持って楽しめる活動に改良された例も少なくない。活動内容と園児の人数や状況判断とのバランスに対する把握は、保育者の視点の方が正確であり、またアイディアの面でもすばらしい。また、教具においても、保育者の計画案に沿って、園児に提供された活動を英語活動に再活用する、つまり、各クラスの wall － decoration の利用などは効果的といえよう。園児の絵画や作品、Modeling dough ねんど遊びや Finger paint、Vegetable printers、Construction toys など数々の活動に焦点を当て、number － counting や color － learning、季節に関する vocabulary の導入など活動の可能性を広げる要素は容易に発見できよう。各保育室のおもちゃ等にも教具としての可能性をもとめることができる。日本語によって導入された絵本の活用も見逃せない。また、英語活動として HALLOWEEN の treating － bag の導入の試行をし、さらに本格的に Crafts and Creations を英語活動として、保育内で行われているトイレットペーパーの芯や牛乳パック、箱や新聞紙など Household items を使用し園児と共におもちゃを英語で作るなどの試みも考えている。Thinking and Talking を幼稚園内の英語活動として取り入れることは困難であろうが、TOPIC を持って Learning by doing、Songs and games、Story － telling、Book － reading などは積極的にコンスタントに routine 化したい活動である。また、年齢に合わせ、Pretending ごっこ遊びも今後活動に加えていきたい要素である。児童心理学的観点から 3 歳児　4 歳児　5 ・ 6 歳児の行動と言動が何を表し、どのように変化を遂げ、日々成長する園児にいかに対応していくのか？　かれらの園内で垣間見ることのできる言動や生活習慣と園内で可能な、できうる限り自然な英語による input ・ output のバランスなど　問題は数限りない。園児が自分から真似をしたり、積極的に参加をしたくなるような、活動時間内フルに集中力を保つことが可能な活動とは？脳の研究が進むにつれ判ってきた脳の発達と言語習得のプロセスに応じた論理的な裏付けのある活動とは？　here and now の原則に従い、園児の限られた認知能力を最大限に活用できる活動とは？　右脳と左脳の発達に合わせた言語習得と活動内容とは？　など、あらゆる角度からカリキュラム案、教授方法、教材、教具を考え、実際試行し　次の段階として、その試行によって園児の反応や定着度を DATA 化していく必要があろう。歌や chants などを年中年長クラスを通し、英語の rhythm の体得をねらい導入しているには、岡本夏木氏著「ことばと発達」「子どもとことば」岩波新書でー子どもが言葉を獲得してゆく姿というものは、「ことばの発達」という限られた側面だ

けでなく、一般にひろく発達全般を貫く特徴がどんなところにあるのかを私たちに教えてくれる。中略　つまり人間関係を通して、「外」なる世界を、自分の「内」なる世界たらしめていく。しかも大事なことは、そうした環境を、ただ外から与えられたもの、外的刺激の機械的影響としてうけとるのではなく、子ども自身が自分の能動的な活動を通して、自分のものとしていくところに発達ということのいちばんの特徴があるわけである。この典型的な特徴はことばの獲得過程にもっともよくみられる。中略　外からの刺激としてのことばを、そのまま機械的に写しとっていくのではなく、自分の活動をとおし、選択的に自主的に使いはじめるのである。中略　自分の積極的なはたらきをとおして獲得し、さらにそれを新たな力として自己をひろげ、外界をつくりかえていく。（p4l13 － p5l3 － p6l3 － 5）園児が一旦、刺激として受け入れた英語の歌、あるいはメロディーや言葉やこころを捉えた動きは連続性を持って飽きることなく繰り返される傾向にある。耳に残る音やことば、メロディーや視覚的に印象深い動作はなぜ意味を持たずとも定着するのかを考えると園児の年齢での脳の発達・右脳の持つ特徴・感情的・受容的・全体的・直感的・音楽的・具体的・場面依存的とおおいに関係性を感じる。個人差はあるが、中にはその耳に残った音やことば自身に興味を示し、意味をもとめる園児も時折見られる。同氏の一次言語と二次言語の発達についての研究も興味深い。身振りと言語表現をうまく使用し言語表現のみでは言い表せない部分を補いつつ、ことばへの興味や対象物への興味を保持していくことが、肝心であろうか？　年少から個々の音にこだわらず、意味のある音のかたまりをインプットしたり、具体物や絵、big book などの絵本の活用によって語りかけを繰り返し行う。絵本内容がシンプルであれば、あるいは　refrain の多い　内容理解にあまり説明の必要性のないものを選択する、あるいは、日本語によって既に内容把握のできている絵本の活用などは有効である。また、picture cards を作成する際、必ず、使用しなくても絵に文字を入れ、pictures and letters をセットにしておくことで、年長まで使用可能な教材として活用できよう。

２：年中児 4 歳児の英語活動

4 歳児（きりん・ひつじ組）
教育目標：誠実　勤勉　仁愛
学年（指導の重点）：
・自分から遊びに取り組む中で十分に自己を発揮し、友達とのつながりを作りながら生活する。
一学期（Ⅰ・Ⅱ期）：大きなねらい＝育てたい方向性
　　集団生活になじむ
二学期（Ⅲ・Ⅳ期）：自立心を持って行動する。
三学期（Ⅴ期）：協調性を養う。

一学期、二学期、三学期ともに細かなねらいが示され、また環境構成の要点も各学期毎に明示されている。今回は年間計画表の英語と言葉に関し、focus してみることとする。2007 年度

も例年通り　週一回 15 分　年間 32 回前後（2006 年度は年間 32 回実施）の英語活動予定である。以後、2006 年度英語活動実施内容と 2007 年度活動予定の比較で記していくことにする。

2006 の英語活動の年間目標： pleasure － learning

・園児個々に活動に楽しく参加できるよう子どもたちの興味に即した TOPIC を扱い、「もっと知りたい。。。」「もっと。。。したい」という気持ちを育む

・ 活動内での rule の理解と遵守、具体的には、友達の発言には静かに耳を傾けるなど、基本的生活習慣を英語活動においても徹底する。

2007 の英語活動の年間目標： pleasure － learning

・ TOPIC を最小限に絞り、季節や月毎の TOPIC を丁寧に扱い、日常生活の中に TOPIC に関連した発見があるようにする。発見によって得られた驚きや感覚をシェアーする。

・ 活動内での rule の理解と遵守によって class 全体の集中力を高める。

・ 歌・チャンツやゲームなどによって園児一人ひとりが楽しめる工夫をする。

年間を通しての routine ：

① Greeting ： date ・ weather ・ attendance

② Warming-up ： ABC SONG ・ Song ：英語圏の子どもたちの愛唱歌などの選択

③ Topic ：季節・保育内容などと関連付けて選択

④ Game or Book-reading（Story － telling）： Topic にできうる限り内容近いもの

⑤ TPR ：一日の日常動作 walk，eat，stretch your body など

⑥ Greeting ：

具体的な一年の流れの検証（2006 年 2007 年 4 月から 7 月までの比較と改良点）

April　2006 ： TOPIC:　Season － Spring has come ！

What　do　you　see ？

Easter　egg ： colors　and　numbers

Game ： Number　game ・ missing － game

April 2007 ： TOPIC:　Season － Spring　has　come ！

What do you see ？

Easter egg ： colors　and　numbers

Song ： Seven steps ・ Ladybug　song

Game ： Number game ・ missing － game

Book-reading ： Brown bear，brown bear，what do you see ？

年少の 8 回の英語活動を経たとは言え、4 月からは新しいクラスなどの環境の大きな変化がある。その上で、4 月より一週間に一度 15 分間とは言え、コンスタントに英語活動が導入されることに考慮し、誰でも楽しめる要素、動きを中心に、変化を持たせ、15 分があっという

間に過ぎるように心がける。例えば、Warming-up として必ず、毎回導入されている ABC SONG では ABC chart（UPPERCASE 大文字・色別した chart）を使用、歌を歌いながら、講師の指示する色、二色、三色の色決めをし、その箇所で指示された動作を行う。例えば、指示語と子どもたちとのやり取りの一部を挙げると、

Let's sing and jump when you see pink letters and green letters ！ Now let us check pink letters and green letters on the chart ！ How many pink letters are there on the chart ？ How about green letters ？ Let's count them together ！ 3 pink letters and 3 green letters，three plus three ？ 6 letters in total.

Now we are going to jump 6 times，right ？

Now let's sing and jump cheerfully ！

Jump の部分は clap your hands や touch your head などを徐々に導入している。

あくまで、既習事項を繰り返すこと、内容の変化に関しては保育者の日本語による導入を依頼する。また、一人ひとり名前を呼び、出欠を取る形で、「Yes」や「Here」の形で元気よく返事をする形を導入。一人ひとり行う活動（Individual-activity）はなかなか時間の確保は難しいが、実際導入し、必要性を感じている活動の一つといえよう。また、保育者も子どもと同じ視線で質問を講師に投げかけ、子どもたちの内容理解や講師の英語による指示理解に能動的な発話が年々見られ、非常に活動の流れがうまくいっている感を持つ。Class-management に関しては、保育者が中心になることでうまく活動が運ぶことが多く、講師は英語活動のルール作りを保育活動に重ねていく事で、子どもたちに混乱が無いように気を配る事が必須であろう。

May　2006 ： TOPIC: Weather ・ Mother's Day

Song ： Seven steps ・ Animal talk

Game ： Matching ・ silhouette quiz ・ Pretending game

Book ： Mothers and babies

May2007 ： TOPIC: Ladybug colors and numbers What do you find ？

Song ： Seven steps ・ Ladybug song

Game ： Number game ・ missing － game

Book-reading ： 10 little ladybugs

改良点と今後の課題：この時期は園児の集中力をサポートする環境つくりのために保育者は年少クラスからのカーペット使用の活動形態から椅子への移行を図り、また、椅子着席の形態も大きな U 字から二列の U 字など状況に応じて

試行を繰り返し、より良い活動形態も模索をしている。ランダムに座る形態、生活グループに分かれての着席、保育者の座席指定など数回にわたって各クラスに合った着席形態を試行した。保育者は常にお互いのクラスの状況等の情報交換をこころがけていたように思う。同学年

三名の共通見解を持つべく常に時間を作っていく保育者の姿勢には、年間を通し、言語活動の指針とすべきものがある。園児の保育者に対する安心感や双方の信頼関係の上に保育活動が成立していることを実感せざるを得ない。更なる保育者との情報交換や英語活動のヒントとなるべき通常保育の観察時間の確保など今年度以降の計画の一部として組み入れている。内容改良点としては、母の日に関する活動は、年長クラスの活動としてスライドし、今年度は、園庭などで日常的に目に触れる興味の対象：昆虫の中からてんとう虫（Ladybug）を取り上げた。お絵かき歌などで導入は Guessing-game などを採用。How many spots do you see on their backs ？と Quiz などを使い colors や numbers などの復習をし、また Ten little ladybugs という chants を Ten little monkeys のリズムで考え導入：

Ten little ladybugs sitting <u>on the leaf</u>.

One fell off and flew away.

Nine little ladybugs sitting <u>on the rock</u>.

One fell off and flew away．Refrain リズム良く、繰り返しで進む。アンダーライン部分に変化を加えていき Level 付けをし達成感を持てるように配慮する。

June-July2006 ： TOPIC:　Animals ・ Frog

Song ： Animal talk（Meow bowwow oink neigh などの鳴き声からのアプローチ）Froggy song

Game ： Matching，Silhouette quiz

TPR:　Let’s be a cat ！（pretending play ：ごっこ遊び）

Book-reading ： Today’s　Monday．（by Eric Carl）

Star festival

June-July2007 ： TOPIC: Rainy　season ・ The life of frog

Song ： Froggy　song（かえるのうた）

Game ： Quiz ：先に出るのは、前足かな？後ろ足かな？　などのクイズを写真などを使用して子どもたちと考える機会を持つ。

Book-reading ： JUMP FROG JUMP ・ Froggy 1 2 3 jump

TPR: jump ・ sleep ・ wake up

Star festival ： I wish

６月から７月は梅雨の季節を中心に、おたまじゃくしを保育室で飼育している環境を活かし、かえるの一生を写真教材で導入。egg-tadpole-frog などの成長を追っていく。保育室での活動の際は、ラミネート加工の教材が角度によっては見えにくいため、階段のコーナーや共有コーナーを利用し、子どもたちが身近に見ることができるように配慮する。また、保育者が共有コーナーを利用し、ミニ図書スタンドを設置しているが、そのコーナーにも英語版の参考図書や絵本の設置を試みた。また、Froggy song では、例年各クラスで振り付けを考え、アイディアを募集したり自分達の歌として定着することを目的に導入してきた。Book-reading においては、

Chorus-reading や repeating（絵本を読み進めるにあたって、子どもたちの協力： Refrain 繰り返しの部分を子どもたちのみで発話など）声を出す活動を増やしていく。例えば、お話が 1 2 3 ump との子どもたちの発話によってのみ　必ず進められるよう input し ready ？　という講師の合図と共に 1 2 3 jump と元気に output していくなど。

以下、2006 年は実施事項とその改良点を踏まえての 2007 年度活動予定を挙げていくこととする。

September 2006 ： TOPIC: Aquarium

Song ： ABC SONG

Game ： Drawing　quiz（shapes ・形の review で順次に形が加えられ正解の octopus などを当てるゲーム

TPR:　swim など

Book-reading ： Shark and water creature ・ Big　Al

　夏休み明け、保育者は保育行事である葛西臨海公園遠足を意識し、生活グループに魚などの水中の生物の名前などを子どもたちとつけ、生活の中で園外保育のアプローチを試みている。子どもたちが親しみを持って取り組める内容を英語活動において導入することで、連絡ノートでも各保育者が子どもたちの英語活動の motivation つくりは保育内容との関連性が大きいと言及している。それは、講師自身も book-reading の活動において痛感するところで、多少難解な内容であっても、また、多少内容が長い場合でも、二回に分けるなど配慮するなど、とにかく子どもたちの絵本への集中力を高める内容であることが、子どもたちの反応などから最重要素であることがわかっている。また、保育者の提案で数年前より　絵本を読む際には、保育時と同じようにゴザを利用し、その上に座って聞く体制をとってきたのだが、保育者が後ろに座って、集中の切れそうな子どもたちに声かけや、寄り添って聞く形を臨機応変にとっている。こうした保育者の環境つくりが、Class-management を含み、確実にプラス要素になって来た。また、導入方法　英語活動で導入後、日本語訳をつけた同絵本を保育で使用を依頼したり、また、保育活動で導入済みの絵本を英語で導入する方法など工夫を重ねてきた。特記すべきは、英語活動の内容理解や動機付けにおいて英語活動外の時間を保育者が自ら積極的に生み出していることである。Children-centered の活動にするための準備は、保育者の工夫と実施に負うことであろう。

September2007 ： TOPIC: Peek-a-boo

Song ： Peek-a-boo song

Book-reading ： Peek-a-moo

Game ： Guessing game Let’s say the number you got ！

Bean bag に刺繍された数を二組に分かれて一人ひとり言っていくゲーム

TPR ： review

October2006 ： TOPIC: Halloween is coming ！

Song ： The Black cats’song

Chants ： Trick or treat ！

Game ： Knock,　knock,　who is it ？

日本でも近年、オーナメントをはじめ、いろいろな形でポピュラーになってきましたが、起源を含め　正確な異文化に対する認識を持てるような活動を Trick or treating bag などを作ると言った、年齢に合わせ単なるお楽しみに留まらない活動を考えている。ただ、Halloween に関する仕掛け絵本やゲームは非常に豊かで、遊びの中に楽しんで英語を取り入れる感覚や子どもたちの活動への動機付けに利用できるものが多い。しかしながら、導入目的をはずす事無く目標設定（project）を捉えた活動内容を選択していくべきであろう。また、二階の保育室から Haunted House に設定したみくるルームへの移動もルールの設定や活動への期待感を持つ動機付けに大きくプラスの要素を持つ。日常生活の場である園内も、通常の活動とは、ほんの少し違うことで communication の tool として英語を使用する。例えば、階段を一緒に下りることで、Watch your step や Be careful ！, Go straight などの指示語を保育室内で状況を踏まえて使用することはなかなか難しい。こうした使用言語内容も違ってくるのは当然であろうが、こうした変化が多くの発見を学習者や講師側に与える。「いつでも　どこでも楽しむ要素として　英語を加える」努力と実践の必要性を感じるところである。

October2007 ： TOPIC: Halloween

Song ： Pumpkin song ・ The black cats’song

Game ： Quiz　What’s　“Halloween”？ Halloween vocabulary

Project ： Let’make your Halloween bag ！

運動会などの行事が一区切りすると　いよいよ Halloween activity のために始動する。園内の飾りつけや、みくるルームの Haunted House の設定、文京学院大学の交換留学生への Halloween activity への参加依頼と活動への参加などの設定、十分　活動を楽しめるように保育者との連絡を取り合う。

2006November ： TOPIC: Animals（Living creatures）Monsters（Imagery creatures）

Song ： The black cats’song

Chants ： Two little mushrooms

Game ： Go away,　big green monster

Halloween の活動の一部から monster などを残し、また、園行事である一日動物村に焦点を合わせ、動物を取り扱う。季節の野菜を取り上げ、動物がどんなものを食料とするのかなど軽く扱う。留学生が活動に参加し、questions And answers の形で一人ひとり年齢当て quiz や好きな物当て quiz などで楽しい時間を過ごす経験を持つことができた。

November2007 ： TOPIC: Animals（Living creatures）Monsters（Imagery creatures）

Song ： How many monsters do you see ？

Game ： Guessing game

Making a funny monster（body parts）

Book-reading ： Go away,　big green monster

実際の生き物と創造上の生き物などを取り扱う。絵本の読み合わせも慣れてきているので　大声で元気に output するだけでなく　声の tone を変えるなどの変化を持たせるよう検討。

December2006 ： TOPIC:　Christmas

What's Christmas ？

Song ： Christmas song

Christmas vocabulary

Game ： Let's find the difference between them Fruit　basket

Book-reading ： Presents from the window

クリスマスの起源や歌やゲームによって楽しみながら日常的な語彙に触れていく。あまり宗教的なアプローチではなく、起源は押さえながらも　楽しめる活動を進めていくことを心がけるようにしてきた。

December2007 ： TOPIC: Christmas

What's Christmas ？

Song ： Christmas song

Christmas vocabulary

Game ： Let's find the difference between them Fruit basket

Book-reading ： Presents from the window

保育に導入されルールも徹底している Fruit　basket が子どもたち全員で楽しめ活用できることが分かったため、Christmas　basket を導入していく計画である。時間的に余裕の無いこの時期でもすんなり導入できる活動は Listen and act の形で実践してみることにする。Listen to me, carefully. Now let's move and sit down within 10 seconds.などの指示語をしっかり聞く環境つくりをし、ゲームも楽しむ。

January 2007 ： TOPIC: A Happy New Year

Twelve　zodiac signs

Book-reading ： Twelve signs of zodiac

Game ： Do you remember all animals in the book ？

十二支を漢字ではどう書くの？十二支のオリジナルカードで動物 quiz をしたり年長クラスでも扱う十二支は、軽く warming up のつもりで導入しました。

保育中にも絵本が日本語版であるので導入を依頼しました。

January2008 ： TOPIC: A Happy New Year

Twelve zodiac signs

Book-reading ： Twelve signs of zodiac

Game ： Do you remember all animals in the book ？

Chants：子　丑　寅　卯　辰　巳　午　未　申　酉　戌　亥を英語でいってみよう！ clapping でリズムをとり　体を動かしながら導入予定

年長クラスでも導入予定の内容のため、音と動作でうまく導入できるよう検討

February-March2007 ： TOPIC: Cloth

Song ： Baa,　baa，black sheep

Game ： Touch something　red ！（Color-tag）

Let's play janken ！ Eeny meeny meiny moe

Book-reading ： The jacket I wear

園行事である子ども劇場の活動を参考に「鬼決め」の英語版 Eeny meeny meiny moe を体験してみる。

Eeny meeny meiny moe

Catch a tiger by his toe

If he hollers，let him go

Eeny meeny meiny moe という chants は英語圏の子どもたちの中では非常に浸透している遊びの一つである。

音に面白さを感じ子どもたちは、音遊びとしてすんなりと output していたようである。完全に output 出来ないまでも　楽しむ事に関しては目標に達することができたため、年長クラスでは、定着を目標に導入計画である。

Febuary-March2008 ： TOPIC: Cloth

Song ： Baa,　baa，black　sheep

Game ： Touch something　red ！（Color-tag）

Let’s play janken ！　Eeny meeny meiny moe

Book-reading ： The jacket I wear

手遊びや単純な動きを活用して活動内容を体で体験し定着の助けとする。

カリキュラムを再考し、実際の活動に生かすために　連絡ノートでの書く学年の保育者（担任二名　学年付一名）が各視点で英語活動に対する意見や反省点アイディアの交換など、保育者との話し合いを補足する方法として作られたノートであったが、年間を通し、二クラスを比較しながら活動の補助に入ることのできる学年付の視点には多くのヒントを得た。子どもたちの座る隊形、講師と担任との絡み方、日本語の適宜な導入方法、二クラスのバランス、当然

保育内容との連動の仕方、教材など例を掲げればきりが無い。しかしながら、実際、保育者のことばや考えには　活動への多くのヒントが隠されている。さらに子どもたちの実生活に焦点を当てようとするには、子どもたちの日常の観察によってヒントを得られることも当たり前といえよう。一年間を通し、英語活動によって子どもたちが得られるものは何か？幼稚園の指導計画と保育資料、年間の行事の意義と導入の仕方、それに連動させるべく、英語活動で歌やチャンツ、ゲーム、絵本、TPR の活用をしていく。TPR では一語の命令文 Run ！・ Walk ！などから複雑な文に移行させていくこともできる。

Eat an ice-cream ！などの動詞と目的語の文や、Touch your friend’s head with your hand など、或いは　Touch something sky blue and turn around. など、発話に個別差のある幼児期には大いに可能性を秘めた活動である。体で反応することと言語発達との相関関係が高いとされることから　1960 年台半ば J. J. Asher 氏によって提唱された TPR（TOTAL PHYSICAL RESPONSE）の英語活動内で効果は大きい。

３：年少・年中クラスのカリキュラムの試行からの垣間見えるもの

保育との連動を目指し、再考・試行を繰り返し再認されること。それは、それぞれの年齢に合った活動 activity －教材 material は講師と保育者の間で練りこまれ、少しずつでも改良されるべきである事に尽きる。勿論　全ての時代、全ての子どもたちを対象とする普遍のカリキュラムや教材は存在しないのであろうし、ただ　基本的な教授法やテクニックを踏まえ、TOPIC に合わせ、柔軟に応用していくことや活動の Routine 化によって達成度の高い activity を必ず導入する。あるいは、一つの活動においても Level を何段階かに分け　チャレンジする気持ちを育む。また、全体活動―グループ活動―ペアー活動―個人活動など活動の種類の変化をつける。常に、五感を十分に活用しうる活動を模索し工夫を心がける。などカリキュラム編成のベースを整える必要性を感じる。さて、本題のカリキュラムは、整理すると、個々を生かすためにも年齢、発達段階、知的好奇心と興味、保育室環境、子どもの人数　日案　月案　年案の計画と実践と到達目標などの考慮し、ことばとして英語をとらえることのできる　必要性のある生活語彙と表現に慣れていくことにある。年少から年中の英語活動を経、　年長までの三年間の、日常に体験しうる耳や目、動作からの Input と英語の音や独特のリズムを口真似し、体で表現する、使ってみる機会を作ることを前述の園行事や保育内容に重ね合わせていく作業や体験が、小学校での英語や中学　高校　大学　専門学校　生涯教育としての英語　言語教育の基礎となっていくはずであろう。年長の子どもたちに毎年導入している HELLO　SONG という歌がある。TOPIC は「世界のこんにちは」。導入の際に世界の子どもたちの実際の写真を使用している。写真を目にした問いの様々な反応。日本では日本語、英語圏では英語という言語が存在し、またほかの国々では他の言語が存在し　他の文化が存在することを知る。次年度詳しく述べる予定だが、帰国子女も近年多く、彼らの英語活動への参加の仕方にも興味深いものを

感じる。幼稚園児が彼らの年齢や感覚で世界を見る意義は大きい。あらゆる知識や技術・情報・知的財産の大部分が英語によって保存され　英語を通じて使われる現代。人間の共有財産に英語が大きく関与している事実、母国語の中にも多くの英語は存在し、生活にも大きく影響力を持つ英語。二歳ごろまでに身につけられるとされる分節　連合　分類　順序　配列などの言葉の使用に欠かせない概念の基礎に生活語彙を様々な活動を当てはめて考えることで活動内容を選択していけるかもしれない。選択した活動内容が本当に子どもたちに機能する何かを残しているか？　三年間の英語活動後、卒園した子どもたちのその後を追跡調査し英語に対する意識などの調査と英語力の実際などのリサーチにも興味を感じる。保育者の英語活動へのアプローチをも含め、年長の三年間に渡る試行を次回整理して行くこととする。

言葉で伝えることの楽しさをどう育むか？こころを伝える道具としてことばが存在する。他言語である英語であっても伝えたいこころや対象の存在こそがことばへのアプローチであることを痛感する幼稚園での英語活動、経験したこと考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。幼稚園での幼児期にふさわしい形での子どもの「生きる力」の基盤、多くの幼稚園に関わる大人たちの知恵と経験の下に豊かな成長への手助けが出来るよう今後も努めていくことで子どもたちと共に日々新しい発見をしたいものである。

参考文献

Burditt FEARON Cynthia Holley and Faraday,（1989）‘Every Day in Every Way’
Mary beth Souza（1998）‘How do American Elementary school kids learn English?’ はまの出版
Miriam Stoppard（1997）‘TEST YOUR CHILD’
Jean Brewster and Gail Ellis with Denis Girard,（2000） Longman, ‘The primary English teacher’s guide’（2001）
フレーベル館『幼稚園教育要領解説』
無藤隆,『実践新幼稚園教育要領ハンドブック』（2006）学研
岡本夏木,『子どもとことば』（1982）岩波新書
岡本夏木,『こどもと発達』（1985）岩波新書
杉田洋、服部孝彦、小野博,『うちの子ペラペラになれるかな？』（2000）旺文社
幼児言語研究会編,『幼児のことば教育入門』（1979）一光社